

1. 全館共通項目  
(1) 数値目標による評価

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	A
目標値の達成度(80%~99%)	B
目標値の達成度(80%未満)	C

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠
				達成値			特記事項
1	利用状況	入館者	一日あたりの平均入館者数	417	人	A	434人×96% 開館日数:310日 総観覧者数:135,221人
				436	人		
2	利用状況	常設展観覧者	一日あたりの平均観覧者数	129	人	B	132人×98% 開館日数:310日 総観覧者数:35,518人
				114	人		
3	利用状況	情報提供サービス	年間レファレンス対応件数	218	件	B	186件×117% 28+31+14+23+17+11+16+9+6+6+11+5
				177	件		
4	利用状況	インターネットの活用	年間HPアクセス件数	502,098	件	A	311,862件×161% 更新280回
				511,671	件		
5	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数	850	件	B	531件×160% 掲載件数260件
				755	件		
6	効率的運営	経営努力	観覧料および事業等収入額	17,488,000	円	C	当該年度予算計上額 観覧料7,172,600円+その他6,274,956円
				13,447,556	円		

(2) チェックリストによる評価

評価基準	
チェックリストのクリア数(8割以上)	A
チェックリストのクリア数(5割以上)	B
チェックリストのクリア数(5割以下)	C

	視点	項目	指標	実施目標		評価	実施目標の設定根拠
				達成値			特記事項
1	資料の収集・保管	資料の収集	収集方針に基づいた継続的な収集事業の実施	12	件	A	別紙チェックリストによる
				12	件		
2	資料の収集・保管	資料の保存・管理	適切な保存・管理の実施	17	件	A	別紙チェックリストによる
				17	件		
3	展示・教育普及	資料の活用	展示・公開・貸出等での資料活用状況	10	件	A	別紙チェックリストによる
				10	件		
4	展示・教育普及	常設展示	来館者に配慮した展示運営	10	件	A	別紙チェックリストによる
				9	件		
5	展示・教育普及	学習支援事業	参加者に配慮した事業運営	9	件	A	別紙チェックリストによる
				9	件		
6	連携・協働	県民との連携・協働	連携・協働の実施状況	7	件	A	別紙チェックリストによる
				7	件		
7	調査研究	調査研究活動	活動状況および成果の公開状況	10	件	A	別紙チェックリストによる
				10	件		
8	施設・アメニティー	快適空間の提供	施設・設備の改善状況	13	件	A	別紙チェックリストによる
				12	件		
9	施設の活用	施設の利用・活用	施設の利用・活用状況	6	件	A	別紙チェックリストによる
				6	件		

2. 館別独自項目  
 (1) 数値目標による評価

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	A
目標値の達成度(80%~99%)	B
目標値の達成度(80%未満)	C

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠
				達成値			特記事項
1	特別展・企画展	入館者	特別展・企画展の入場者数	23,969	人	B	各特別展・企画展の目標入館者数の合計 3,728(春)+5,860(夏)+6,426(秋)+4,635(冬)+1,475(春)
				22,124	人		
2	学校利用	出前授業	出前授業の実施校数	19	校	A	昨年度実績
				20	校		
3	学校利用	団体利用	学校団体の博物館利用校数	72	校	A	昨年度実績
				90	校		
4	資料管理	資料点検	年間の点検資料数	12,000	点	A	資料点検年次計画による
				54,305	点		
5	満足度	常置アンケート	アンケートでの常設展満足度	80	%	A	25年度満足度83パーセント
				82	%		
6	満足度	企画展・特別展アンケート	アンケートでの企画展・特別展満足度	80	%	A	
				82	%		

評価基準	
チェックリストのクリア数(8割以上)	A
チェックリストのクリア数(5割以上)	B
チェックリストのクリア数(5割以下)	C

(2) チェックリストによる評価

	視点	項目	指標	実施目標		評価	実施目標の設定根拠
				達成度			特記事項
1	魅力ある展示	特別展・企画展事業の実施	歴史・民俗・古美術をテーマとした全国レベルの特別展・企画展の実施状況	8	件	A	別紙チェックリストによる
				8	件		
2	中核的施設の役割	中核的施設としての活動	中核的施設としての活動状況	6	件	A	別紙チェックリストによる
				6	件		
3	多様な学習支援プログラムの提供	ゆめ・体験ひろばの運営	機能や特色を生かした体験プログラムの実施状況	8	件	A	別紙チェックリストによる
				8	件		
4	文化遺産の次世代継承	伝統文化の記録・公開・継承	記録・公開・継承事業の実施状況	7	件	A	別紙チェックリストによる
				7	件		

## 年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来から実施しているIPM作業時の資料点検に加え、12万点余の資料を10年をかけて全点点検する計画を立て、4月当初に着手した。現在、月2回実施している。</li> <li>・県立博物館として開館して以来の入館者数が8月20日に500万人を達成し、記念イベントを実施した。</li> <li>・7月に再び訪れたい博物館とすることを目標として様々な改善項目を定め、全館で取り組む「博物館魅力アップ活動」を年間を通して展開した。</li> <li>・「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録、「和紙」のユネスコ無形文化遺産登録に合わせ、常設展示室で、関連する埼玉県の資料を展示するテーマ展を開催した。</li> <li>・利用案内の配布、事前打ち合わせの実施等により、学校利用の促進に取り組んだ。</li> <li>・近隣施設と連携したミュージアムヴィレッジ大宮公園事業を多面的に推進した。</li> <li>・県立高校との連携を進め、館の魅力アップに努めた。</li> </ul>
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに着手した資料点検が順調に進み、目標を大きく上回る成果を挙げた。</li> <li>・学校団体利用が増加し、受入可能なマンパワーの上限に近い成果を挙げた。</li> <li>・ミュージアムヴィレッジ大宮公園のスタンプラリー参加者が昨年より大幅に増加した。初めてミュージアムヴィレッジ大宮公園トークイベントを実施し、定員いっぱいの聴衆が集まった。</li> <li>・人気の高い円空仏や、時宜を得た富岡製糸場や細川紙関連の常設展示を行った。</li> <li>・「博物館魅力アップ活動」により様々な分野の改善が進み、施設の快適性向上と日常業務の合理化を図ることができた。</li> </ul>

## 基礎データ

職員数 (学芸員数)	37人 (24人)	総予算額 (人件費を除く)	105,292,000円	職員一人あたりの県民人口	20万人
収蔵資料総点数	123,037点	事業経費 (上記の内数)	72,358,000円	利用者一人あたりのコスト (平成25年度)	872円
平成25年度 収集資料点数	1,067点	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	17,488,000円 10,212,750(円)	県民人口に対する利用者割合 (平成25年度)	1.66%

(注)平成26年度4月1日現在の埼玉県推計人口は7,225,484人である

平成26年度 博物館施設 総合評価

施設名 歴史と民俗の博物館

		A評価	B評価	C評価
全館共通	数値目標による評価	2	3	1
	チェックリストによる評価	9	0	0
各館独自	数値目標による評価	5	1	0
	チェックリストによる評価	4	0	0

自己評価総括

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・IPM、資料点検は全職員の協力により、順調に作業が進捗している。</li> <li>・無料スペースを含む入館者数は順調に推移している。一方で、展示室への入場者数や特別展、企画展の観覧者数は目標を下回っている。</li> <li>・学校団体の利用は、上半期では目標数の半数に満たない数値であったが、秋以降に利用が集中し、目標を上回るペースで推移している。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常設展示室及び特別展、企画展の入場者数の増加</li> </ul>
対応の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示の適切な広報と、ゆめ・体験ひろばを中心とする無料スペースへの入館者に展示室観覧を促す。</li> </ul>

## 評価結果に対するコメント

### 1. 全体に係る評価

各館協議会・委員会 の意見	<ul style="list-style-type: none"><li>・「再び訪れたい博物館とすること」を目標として全館で取り組む「博物館魅力アップ活動」を展開したことは高く評価できるが、埼玉県立の大規模な歴史・民俗博物館として何を目指し、何処へ向かおうとするのか、ミッションの定義づけのような作業が行われてもよいように思った。</li><li>・資料点検の順調な継続について高く自己評価している。必要かつ大変な作業であることは十分理解できるが、それが館としての研究・展示活動といかに結びついているのか、外部からは見えづらいところがあるので何らかの意義づけをお願いしたい(資料収蔵機関として随時点検するのは日常の業務であり、それがなぜ評価に値するのかが外部の者には不明瞭ということ)。</li><li>・世界遺産登録、ユネスコ無形文化遺産登録にあわせてテーマ展を開催したことは重要な取り組みなので、常設展示室でも同様の取り組みを期待したい。</li><li>・一般的に広範囲の課題に対してよく取り組んでいると感じる。所蔵資料の点検は、博物館の維持活動を支える重要な作業なので、今後も取り組んでいただきたい。</li><li>・博物館の役割は、未来のために資料・記録を残す、収集するという大事なものだ。これを基礎として、自己満足ではなく、魅せ(集客し)、感じてもらう、という役割もある。そのために一人でも多く足を運ばせる。何なら人は動くか来るかというさらなるもう一方の取り組みも必要。</li><li>・大変興味深い内容の特別展・企画展であったと思うが、入場者数が目標値に届かなかったのは残念であった。その要因を分析・検証し対応策を検討するとともに、今後も魅力有る企画の立案、広報の工夫が求められる。</li><li>・常設展の一部展示替え、民俗展示のリニューアル、富岡の世界遺産登録や細川紙の無形文化遺産登録などにあわせたテーマ展示など、常設展示においても新たな取り組みや工夫がなされたことは評価できるが、全体として常設展示の情報の古さは否めない。常設展示の全体的リニューアルも検討して欲しいが、現状においても当館の役割・機能を踏まえ、調査・研究活動を基盤として、つねに新鮮な情報を展示に反映させていく方法や体制づくりの検討も必要であろう。</li></ul>
------------------	---

### 2. 全館共通項目に係る評価

評価 小委員 の意見	<ul style="list-style-type: none"><li>・どの館とも事業収支向上が大きな課題であるが、観覧料および事業等収入額のさらなる改善にないことができるか、一度すべてをクリアにして、工夫の余地を館に関わるすべてのスタッフで考えたい。管理部門だけでなく現場スタッフ(学芸員等)からのアイデアが大きな力を発揮することも多い。</li><li>・オリジナルのミュージアムグッズの開発、そこでしか手に入らない、好事家にとっての貴重品など魅力ある商品を多種多様に考える。近美のショップには館独自だけでなく商品も多く、思わず手に取り買い求めるお客様も多い。</li><li>・学校団体利用の増加や、「博物館魅力アップ活動」などの取り組み、地域連携事業の推進などの活動など多方面での積極的な活動が行われたことは大いに評価できるが、常設展入館者の減少、レファレンス件数の減少が続いていることが気になる。特にレファレンス件数が他館に比べても少ないことについては、要因分析・検証が必要であろう。県内博物館の中核的施設としての当館の役割を考えると、県民の生涯学習活動の中核的施設として、また県内外への埼玉県の歴史・民俗研究の発信基地として、より積極的な役割を担っていくことが求められる。</li></ul>
------------------	---